しろちどり

第82号

2014年12月　日本野鳥の会三重
http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

田舎暮らし雑感　その２

近藤義孝（桑名市）

前回は、退職後に始めたマコモタケ栽培について書きました。

その後、順調に生育し、人の背丈より大きくなりました。9 月の終わりころから収穫が始まり、はじめはわずかしか採れませんでしたが、10 月中旬には日に 200 本くらいとれる日もありました。1 株からは 5 から 10 本程度収穫できます。今、ほとんど収穫も終わりました。植えつけたのは、200 株程度でしたが、なぜか、茎が太くならない株がたくさんあって、半分以下の株からしか収穫できませんでした。

マコモの茎に黒穂菌が入っていて、膨れるのですが、太くならなかったのは十分に黒穂菌が入っていなかったためかもしれません。来年は収量の多かった株から苗を作って育てるつもりです。

マコモタケ栽培では、生物の多様性について教えられることが多くありました。

近年の稲作では、重い大型のコンバインでも収穫できるように、水田を固くするために、また、主な栽培種であるコシヒカリは細い茎が風・雨などに弱いため、根のはりを良くし、倒れるのを防ぐため、中干し（水田から水を抜き、地面を乾燥させる）をするように勧められます。特にコシヒカリは茎が細く、栄養分の多くは米粒の中に取り込まれるため、収量は多いのですが、倒れやすいのです。そのため、中干しが行われる 6 月の水田では、オタマジャクシや小魚がたくさん死んでいます。小さな水たまりに集まっているときは、サギ類の格好のエサ場になっています。用水路から水を引き込み､排水路へ流す今の水田と違い、昔は水を引き込む川と繋がっていたので魚たちも避難できました。子供の時に、大きなナマズを何匹も水田で捕まえ、かば焼きにした覚えがあります。ナマズのかば焼きはとてもおいしいものでした。

目　　次

田舎暮らし雑感その２ ----------1
山の鳥達の姿を求めて ----------2
シカに食べ尽くされた？鈴鹿の野鳥--4
大仏山の鳥----------6
ボーボー野の花ごよみ ----------8
鳥羽船津町行者山タカ渡り ----------11
多度山タカ渡り ----------11
事務局だより ----------12
野鳥記録 ----------12
今後の探鳥会予定----------16
探鳥会報告 ----------17
編集後記 ----------19

表紙の言葉

小坂里香

今年も冬鳥の季節がやってきた。

明るいところにはなかなか出てこないシロハラだが、ミミズや落ち葉の下の昆虫を好んで食べるため必然的に日影にいるだけで､別に性格が暗いわけではない。隠者のようでいて、身体に似合わず派手な音をたてて落ち葉をあさり、特徴のある鳴き声でよく鳴くので、それとすぐわかる。

鳥の食事風景を見るのは楽しい。何を食べているのか、現場ではわからなくても、帰宅してモニターを見て、餌の意外な正体に驚いたりする。このシロハラはカタツムリを食べていた。ヒヨドリが越冬中のカタツムリを木のうろからつつき出しているのを見たことがあるが、陸生貝類は案外、野鳥の大事な餌になっているのだろう。エスカルゴは美味しいらしいけれど、生では食べたくないなと思いながら描いてみた。

マコモタケを栽培している水田では、5月からずっと水を入れているため、メダカが泳いでいます。また、カエルの仲間もたくさんいます。カエルを捕まえにマムシも泳いでいることがあります。

生き物がたくさんいる場所は、鳥も例外ではありません。毎日、キセキレイ・セグロセキレイ・ハクセキレイに、カワセミやアオサギなどを見かけます。モズも啼いています。ジョウビタキも 10 月中旬にやってきました。オシドリは、上のため池に 30 羽ほどやってきました。周辺のため池を順に廻ってドングリなどのエサをとっているようです。そろそろルリビタキもやってきます。

＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞

山の鳥”達の姿を求めて！

津市　前田　聰

今回、本誌事務局から「“山の鳥”の写真を投稿して欲しい。」との依頼があり、本誌に載せてもらうような写真ではありませんが、勇気を出して投稿しました。

でも、どんな”山の鳥”にしたらいいかと悩むこととなり考え抜いた結果、『発見して、心臓の高ぶりを感じながらカメラのシャッターを切った』そんな鳥君を選びました。

イスカ　”松ぼっくり”で喉が嗄れたのか…？、群れで水場に現れて喉を潤すその様子が大変愛らしかった。　2013.11.26 ～ 2013.12.6　津市

オジロビタキ　特に、人懐っこいオジロ君で、長い期間にわたって元気な顔を見せてくれました。2014.1.19 ～ 2014.1.31　津市

ヤブサメ　以前から見たいと思っていたが、水場に突然現れて、永年の夢が叶いました。2014.6.2　　伊勢市

キクイタダキ　この年は、県内各地で ” イエロー･ハット ” の格好良い姿を見せてくれました。2012.12.16 ～ 2013.1.6　津市

クロジ　なかなか明るい場所にはお目見えしてくれない奥ゆかしい性格で苦労しました。2012.11.1　津市、2012.12.1　松阪市

コルリ　声はすれども姿は見えず、でも今回は幼鳥で警戒心薄く、囀りに一生懸命でした。2014.5.19　菰野町

カヤクグリ　人懐っこく、車の直前で 30 分程愛嬌を振る舞う等、一緒に遊んでくれました。2013.1.6、2013.1.31　津市

皆さんには、常日頃見慣れた鳥達だと思いますが、小生にとっては写真を撮る瞬間は鳥肌が立つほど興奮してました。その時の感動は今でも忘れることができません。

これからも、そんな素晴らしい出逢いを期待しつつ、山野を駆け巡りたいと思います。

==========

シカに食べ尽くされた？　鈴鹿の野鳥

四日市市　辻　秀之

急増したシカ

北鈴鹿の御池岳は奥ノ平と呼ばれるあたり、10 年あまり前は人の背丈を超えるイブキザサが行く手を阻み、ササをくぐりながらの行軍を強いられました。今は奥ノ平を席巻したササはすっかり影を潜め、イワヒメワラビと呼ばれるシダの大草原となり、ササに遮られ望むべくも無かった御池岳一体の眺望が開け、登山者を喜ばせています。イワヒメワラビはニホンジカの不嗜好植物と呼ばれる植物のひとつで、このところ急増したシカたちが強靭なササを瞬く間に食い尽くし、シカの食べないイワヒメワラビの群落に置き換わりました。野生動物被害はしばしばマスコミにも取り上げられるようになりましたが、シカが増え続ける理由は単純ではなさそうです。

①猟師が減った　②法律でメスジカの狩猟を禁じた　③林業施策で山奥まで林道が作られた。一斉皆伐で大面積の草原が出現した。

ほかにもいろいろありそうですが、鈴鹿に関して言えば、地球温暖化で？冬の積雪が減って、冬の間シカが食べるササが埋もれなくなったこともひとつの原因に挙げられそうです。

現在の奥の平の様子

1939 年（昭和 14 年）の冬の藤原岳
（鈴鹿ハイキング倶楽部
中村健次氏所有写真）

2010 年の冬の藤原岳

とばっちりを食った野鳥たち

林床にササの多い鈴鹿山中では、コルリは夏鳥の定番で、コマドリは真の谷の源流付近や御在所の一ノ谷新道あたりでは少ないながらも繁殖していましたが、どちらもさえずりを聞くことはまれになりました。鞍掛峠から鈴北に上がる県境稜線のウグイスは、なぜか藪に閉じこもらず、ササの桿のてっぺんに上がってさえずる姿が楽しめましたが、こちらもすっかり影を潜めました。領土拡大を伺っていた、外来生物法で指名手配中のソウシチョウも見かけなくなったことは喜ばしいこと？？？

コルリ

コマドリ

これだけ生態系が劣化すると、そのてっぺんにいるイヌワシやクマタカも気になりますが、今のところとりあえず暮らしぶりに大きな変化はなさそうです（こちらは別の理由で心配ですが･･･）。

一時の変化で未来を予想するのは軽々しいと分かっていますが、自然と人間は違

う時計を使っていて、このころ人間の時計で計れるほど急激な変化が自然に起こっている、そんな気がしています。

イヌワシ（伊吹山）

ウグイス

==========

大仏山の鳥

伊勢市　　橋本祐子

私がフィールドにしている大仏山(周辺)は、伊勢市、明和町、玉城町が入り組んだ平野に浮かぶ最高所 50 m ほどの丘陵地である。子供の頃から、身近にあったこの場所をマイフィールドとして、バードウォッチングや自然観察の場として使うようになって２０数年になった。子供の頃はピクニックや茸狩り（キノコ狩り）に行くくらいで、宮川用水ができてからはほとんど遊びに行かなかった。

現在は、県営大仏山公園と伊勢市のスポーツ公園があり、多くの人が遊びにきているが、まわりには森やため池、湿地（放棄水田）があり、かつて里山として活用されたなごりが残っている。

私は、主に自宅に近い東側を歩くことが多いが、以前はむきだしの赤土にアカマツやコナラがまばらに生えているところや松林が多かった。今はマツが枯れ、コナラが大きくなり常緑樹がのびてきている。森が暗くなり、放棄水田にハンノキが茂り、孟宗竹林が拡大してずいぶん変化してきた。それにつれ棲んでいる生き物にも変化がある。ここ１０年くらいは、イノシシが入ってきて（誰かがイノブタを放したという話やサニーロードを伝って山から降りてきたという話などがある）数が増え，公園や周辺の田畑にも出てきている。

宮川用水が、暗渠（パイプライン）になったので、水の出方や降雨も変化した。まわりの農地の用排水路もパイプラインになったり、コンクリート化して水の生き物も減った。東の端の荒れ地になっていたところも住宅などができ、隣接する公園の展望も激変した。池の水に影響があったのか、ジュンサイなど水草が消えた。南側の県道沿いは商業施設が並んでいるが、新たに大型店ができて山が削られた。西側の宮川用水近くには、新たに幼稚園施設が建設中である。

長年、大仏山自然クラブを主催して自然観察会などを行ってきた私たちは、そのつど、大仏山の自然に配慮してもらうようお願いしてきた。一部配慮されたところもあるが、残念ながら損なわれてしまったところが多い。

野鳥の変化であるが、全国的な状況や周りの影響もあり大仏山だけで判断できないが、だんだん野鳥がすみにくくなっていることはまちがいない。

宮川用水が、暗渠になって水辺の鳥はみられなくなった。（隣の水田にくる鳥や移動中の鳥がみられることはある。）

たまたま、２００５年頃から秋の渡り鳥を伊勢市スポーツ公園の展望台で観察してきたが、住宅の建設で鳥たちの渡ってくる（やってくる）様子がかわった。

表．２０１２年３月から２０１３年２月の１年間、宮川用水沿（明野側約 400 ｍの範囲）で観察された鳥類

和名	備考	春3月-5月	夏6月-8月	秋9月-11月	冬12月-2月
カワウ	上空通過	○		○	○
オオタカ		○	○	○	○
ハイタカ		○		○	○
サシバ	上空通過	○		○	
ノスリ				○	○
ミサゴ	上空通過	○		○	
ハチクマ	上空通過			○	
トビ			○	○	
キジ		○	○	○	
キジバト		○	○	○	○
カワセミ		○		○	
コゲラ		○		○	○
ヒバリ		○	○	○	
ツバメ		○	○	○	
アマツバメ				○	
ハクセキレイ		○		○	○
セグロセキレイ		○	○	○	
キセキレイ				○	
ビンズイ				○	○
サンショウクイ		○		○	
ヒヨドリ		○	○	○	○
モズ				○	○
ジョウビタキ		○		○	○
シロハラ		○		○	○
ツグミ		○			○
ウグイス		○		○	○
エゾムシクイ		○			
センダイムシクイ		○			
セッカ				○	
キビタキ		○		○	
エゾビタキ				○	
エナガ		○	○	○	○
ヤマガラ		○		○	○
メジロ		○	○	○	○
ホオジロ		○	○	○	○
カシラダカ				○	○
ミヤマホオジロ					○
アオジ		○		○	○
カワラヒワ		○	○	○	○
マヒワ					○
ウソ					○
シメ					○
スズメ		○	○	○	○
ムクドリ			○	○	○
ハシボソガラス		○	○	○	○
ハシブトガラス		○	○	○	○

建設中の住宅地をさけて森の残っているところへ飛来するようになった。上空通過の鳥も離れて飛ぶようになった。今後、住宅地周辺が在来種で緑化され、鳥たちにも居心地の良いところが増えるようにしていただけるとよいと思う。また、近くに陸上自衛隊があり、ヘリコプターなどの訓練飛行が行われているが、それにより鳥たちが異常に騒いで移動することがある。最近、飛行が増えたようにも思われる。

大仏山周辺は、平野に浮かぶ島のようなところなので、開発行為や人の過剰利用はかろうじて残されてきた身近な自然を破壊してしまう。そこに棲む生き物を守り、近くに住む人や子供たちの身近な自然体験の場として、自然観察の森やいきものの里のような保全をしながら利用していきたいものである。

ボーボー野の花ごよみ

津市　橋本富三

日本には四季があり、動物や植物は移り行く季節の変化に合わせて生活を営む。旅鳥は渡りを繰り返し、巣をつくり雛を育てて故郷へ帰る。植物もまた大地に芽を出し、花を咲かせ種を実らせて、次の世代へ命を繋ぐ。そんな季節の移ろいを楽しみに、あちらこちらの花を訪ね歩いた思い出を思いつくままに書いてみた。記憶違いや勘違いがあるかも知れないが、そこは読み飛ばしていただければありがたい。

菜の花

正月の喧騒も終り雑煮もたべ飽きて、早春の息吹が聞こえてくると、待ちかねた春を探しに旅がしたくなる。手始めに早咲きの菜の花を探しに出かけよう。

風はまだ冷たいが伊勢志摩の海は冬でも穏やかで青くやさしい。鳥羽から鵜方にかけてところどころに早咲きの菜の花が暖かい陽光をあびてたおやかに咲きそろっている。顔を近づけると春の甘い香りに遠い昔がよみがえる。安乗の灯台まで足を延ばせば、自生のヤブツバキの赤い花の蜜を吸うメジロやヒヨドリがかしましい。

潮騒が聞こえるひなびた漁村の片隅につややかなツワブキを見つけ、午後の陽だまりの中でトビの鳴声をＢＧＭにしばしまどろむのは、この上ない穏やかな時間となる。

白梅

春の花粉症は困りものだが、鼻水をズルズルやりながらそれでも月ヶ瀬の梅園を見に行くのは毎年の恒例になっていた。

月ヶ瀬湖の水面を背景に、一万本の梅の古木がすがすがしい芳香を放ちながら咲く様は圧巻である。梅には白梅と紅梅があるが実を採るのは白梅が多いようだ。月ヶ瀬でもその多くが白梅で、所々に赤やピンクの花もあるが観賞用に植えられたものかもしれない。あぜ道の福寿草はつややかな黄色い花弁を広げ精一杯陽光を浴び、空色のオオイノヌフグリは満天に輝く星の集団かと見間違う。

万葉集で詠まれる花は桜よりも梅のほうが多いとか。その頃の人々も早春に咲く梅の花には特別の感情を寄せていただろうか等と飛鳥の時代に心を馳せながら散策を楽しむ。

その時、突然携帯電話に着信があり、若い友人の奥方が急に亡くなられたとの訃報が飛び込んできて、はっと我に帰った。今でも梅の花を見るたびにそのことが昨日の事のように思い出され、胸が痛む。次の年からもう月ヶ瀬には行かなくなった。

ヤマザクラ

日本人にとって桜は最も親しまれている花のひとつであろう。本居宣長は「敷島の大和心を人問はば朝日に匂ふ山桜花」と詠んだ。ソメイヨシノのように派手ではないが、新緑の山腹に咲く一本のヤマザクラは里山の原風景として好ましいものである。平地のソメイヨシノが葉桜になるころに、伊勢奥津に三多気の桜を訪ねた事がある。

ヤマザクラ

山里の寺へ続く参道沿いに植えられたヤマザクラの淡いピンクの花をめでながら歩いていると、とある農家の庭先で望遠レンズを一本の桜の古木に向けている人を見つけた。尋ねてみると木のうろに出入りするオオアカゲラを撮影しているとの事。我々も庭先で観察させてもらうこととした。そこへ農家の奥様がお茶とパックに入った味ご飯を持ってこられ、いかがですかとのセールスを始められた。当方も庭先を拝借している手前、いくばくかをお支払いし、忙しそうに巣を出入りするオオアカゲラを見ながら、味ご飯をいただくことにした。ヤマザクラに居候中の客寄せオオアカゲラ君は農家の売り上げに少し寄与しているようであった。

イカリソウ

三重県にイカリソウの自生地があるかどうかは知らないが、全国に自生地があるようで、長野県の北信地方で見かけた花は赤く、石川県の山中のは白い色であった。

全国的にはさまざまな色や形が存在するようで、友人で全国の自生地を尋ね、その分布を調べている人がいる。菰野町にあるお宅にお邪魔した時に一つの花が赤と白の咲き分けになっている珍しいイカリソウが植栽されているのを見つけた。彼の話では赤と白なので源平咲きというのだとの事であった。無心をお願いし一株分けて頂き自宅の庭に植えつけ、その友人の名前を付けてフクムライカリソウと勝手に名づけた。

数年は花を楽しませてもらったがいつの間にか消えてしまった。しばらく彼とは会っていないので彼の好きな日本酒を手土産に、もう一度あの花を見にお邪魔しようと考えている。

ハマヒルガオ

三重県の県鳥であるシロチドリは、その愛らしい姿と鳴声にファンとなる人も多い。以前数年にわたり町屋から河芸にかけての海岸をハマヒルガオの花の群落を楽しみながら、シロチドリの巣と雛の調査をしたことがあった。

調査の結果、年を追うごとに巣と雛の数が減っていくのが気がかりであった。野犬やカラスによる卵や雛の捕食、人による悪戯、環境の変化等、複数の原因が考えられたが、砂浜の減少や海浜植物の繁茂による営巣地の減少もそのひとつであろう。シロチドリは砂浜でも波のこない砂だけの裸地を巣に選ぶ。ハマヒルガオやハマボウフウなどの海浜植物が生育しているところはあまり好まない。

ある年海岸から少し離れた陸側に大量の砂が運び込まれ、きれいに整地された埋立地が出現した。シロチドリが目ざとくこれを見つけ、複数のつがいが巣を作り、数羽の雛がかえった。次の年にその場所を調査したが、砂の中に植物の種があったものと見え、数種の海浜植物群落に変わってしまっていた。当然シロチドリの巣を１つも見つけることはできなかった。

人工であれ、ある程度の規模の砂浜があれば、シロチドリの営巣地を増やしていくことができるのにと痛感した次第である。

ニッコウキスゲ

毎年 7 月になると霧ヶ峰高原一面に咲くニッコウキスゲが思い出され、無性に会いに行きたくなるのが常である。インドア派の若い友人に「霧ヶ峰へ行ってくる」と言ったら怪訝な顔をされた。彼の知識にはエアコンの愛称の霧ヶ峰はあっても信州の霧ヶ峰高原は知識外のようであった。

ニッコウキスゲ

今年、満開のタイミングを狙って久しぶりに霧ヶ峰高原に出かけてみた。ところが山頂近くのビーナスラインの両側でもほとんど花が見られない。どうしたことかと近寄ってみると遊歩道に沿って電気柵が張り巡らされその中だけに、かろうじてニッコウキスゲの花が見られ、柵の外側ではまったく咲いていない。話を聞いてみると野性の鹿による食害との事であった。農耕地や里山で鹿が増えているというのは知っていたが、標高が２千メートルの高地にまで出没しているとは驚きであった。以前のような一面の群落を見ることはもうできないのであろうか。なんとも切ない話である。

ミズバショウ

北信濃に鬼無里（きなさ）という隠れ里があり、その集落の奥は裾花川の源流部である。ここで昭和３９年に尾瀬をしのぐミズバショウの大群落が発見された。たまたま村人が何かの調査の時に偶然発見したといわれており、現在では奥裾花自然園として日本の秘境百選にえらばれている。

鬼無里の集落から現地に続く細くて舗装されていない道を、バスに揺られながら私が初めて出かけたのはその数年後の春であった。春が遅い裾花川の源流部は日陰に未だ雪が残り､遊歩道は整備されていないが、せせらぎの中でミズバショウは白い炎の群れを作っていた。リュウキンカは春の日差しを浴びて輝き、大木のブナの根元だけ雪が溶けているのがなんとも興味深い。

ミズバショウ

早速写真を撮ろうと買って間もないカメラを取り出したが、何の弾みか手から滑り落ち斜面を転がって湿原にダイブしてしまった。哀れカメラ内部まで水が浸入してしまい、後日カメラ店に持ち込んだが修理不可との冷たい返事であった。

その後も戸隠や栂池、尾瀬などに出かけたが、ミズバショウの群落を見る度に決まってカメラ水没事件を思い出し、なんとも切ない気持ちになってしまうのはミズバショウが悪いのだと八つ当たりをしてしまう。

マツムシソウ

美辞麗句に誘われて出かけてみたがそれほどでもないと言う名所、旧跡は多い。尾崎喜八は「美ヶ原溶岩台地」の詩のなかで「登りついて不意に開けた眼前の風景にしばらくは世界の天井が抜けたかとおもう。・・・・尋常の尺度にはまるで桁が外れている」と詠んだ。その言葉に偽りはなく、標高二千メートルの美ヶ原高原はどこまでも果てしなく広がる。

旧盆の頃、平地ではまだ猛暑が続いているが、ここではもう秋の風吹き始める。見渡せばワレモコウ、ヤマハハコ、オヤマリンドウ、オミナエシ、コオニユリ等が秋の風に揺れている様は、地上の天国のひとかけらだろうか。中でもマツムシソウは初秋にふさわしい。淡い青紫の花序の中に、針刺しに刺さったマチ針のようなしべがあり、始めてみたときその優しい風情にいっぺんで好きになってしまった。一度クジャクタテハがマツムシソウに舞い降りるのを見たことがあるがその美しさに感動した覚えがある。

初秋の高い空、手を伸ばせば届きそうな雲の流れ、そしておおらかな大地に放牧された牛、時おり美ノ塔から聞こえる霧鐘の音、華やかな夏の終りの一瞬のきらめきの中にひと時、身をゆだねるのは素晴らしく幸せなことであった。

カラマツ

カラマツの芽吹きを見られた事があるだろうか。昨日まで何もなかった小枝に沢山の小さな緑の玉が生まれる。それが少しずつ大きくなって１週間もするとカラマツの森全体が美しい浅葱色に彩られる。

寒い冬に耐えて、人にとっても動物にとってもまちわびた春がやってきて、カラマツの高い梢でオオルリやホオジロがさえずり始める。そしてアブラゼミが癇癪をおこして鳴きわめく季節を過ぎると、やがて秋のやわらかい日の光の中でカラマツの金色の細い葉がきらきらと輝きながらとめどなく地上に降り注ぐ。

そんな秋の日に木曽の開田村の地蔵峠を訪ねた。ここは御岳山の頂上からなだらかな裾野までが一望できる私の大好きな場所のひとつである。頂上はすでに新雪を頂き、中腹は金色のカラマツに彩られる。眼下には冬支度に忙しい開田村の集落が望遠できる。

そして雄大な展望をゆっくりと堪能した後は、峠を下った開田村のいつもの民宿ですんきそばと野沢菜をいただく。観光客も途絶えた部屋の片隅で、冷えた体に暖かいそばがしみわたっていくのは忘れられない至福のひと時となる。

==========

鳥羽船津町行者山タカ渡り記録

鳥羽市　川村晴彦・中村徳次郎

鳥羽消防署に隣接した空地で行者山付近を通過するタカ類の渡りを調査した。初日の 9 月 30 日にはサシバがかなりな数渡るのが観察された。この日は伊良湖岬でも相当数のタカ類が渡ったとのことである。その他の 3 日ではサシバの渡りは少なかった。しかし、10 月 7 日にはヒヨドリの群れが行者山方面へ通過するのが観察された。

鳥羽行者山タカ渡り　2014

	開始	終了	天気	風	サシバ	ハチクマ	ミサゴ	備考
2014/9/30	12:30	15:00	快晴	北(弱し)	41	2	1	
2014/10/3	9:40	15:10	晴時々曇	東(弱し)	4	0	0	11:00-14:10 中断
2014/10/4	8:10	10:30	曇	北	0	0	0	
2014/10/7	8:00	11:00	曇	北	12	0	5	

多度山タカの渡り観察記録

木曽岬町　米倉静・桑名市　近藤義孝

今年の多度山におけるタカの渡り観察記録です。観察した場所は、３合目付近の道路際にヒノキが１本はえている所です。ショウドウツバメ・アマツバメ・ハヤブサ類（種不明）なども観察できました。毎年、多い時には 1 日あたり 100 羽近くのタカ類が観察できます。

多度山タカ渡り　2014

	開始	終了	サシバ	ハチクマ	ノスリ	トビ
2014/9/13	8:00	13:00	16	4	0	0
2014/9/21	8:00	13:00	32	34	4	7
2014/9/23	7:00	12:00	23	11	0	2

事務局だより

活動の記録（2014 年 9 月～ 11 月）

9　　会報「しろちどり 81 号」発行・発送作業
9/11　三重県環境保全審議会に出席（副代表）
9/20　木曽岬干拓地の鳥類調査
9/22　木曽岬干拓地問題（丸紅との話し合い）
10/22　野鳥展について松阪農業公園ベルファームと打ち合わせ
10/25　国交省「川と海のクリーン大作戦」五主海岸の清掃活動に参加
10/25　県立大仏山公園（伊勢市）で大仏山フェスティバルに出展参加
10/27　三重県環境学習情報センターへ企画展示について打ち合わせ
11/8~9 「平成 26 年度連携団体全国集会」に出席
11/16　理事会

~~~
~~~

注
1）　１羽は冬羽?　もう１羽幼鳥でした
2）　黒い足、背中が緑褐色で胸部も薄らと黄色味を帯びていた
3）　緑色のフラグ（記号 BAH）を付けたキアシシギ、山階鳥研へ確認結果オーストラリア　クインズランド州で放鳥されたものとの回答、更に BAH について調査中
4）　７月中旬ころより四日市市下海老町内で目撃していた個体と思われる
5）　鳴き声ジジッジジッと鳴きながら飛んでいた
6）　個体によって腹が黒かった
7）　目の下まで黒い部分があった
8）　目の後方の黒い部分が、目の下まで伸びていた。
9）　ハヤブサよりも小さく頭の後方に二本の白い班があった
10）トウネンと同大で嘴の先端がへら状
11）このあたりでは春とか１０月に過去数回観察している
12）１０月に初認したのは初めて
13）特徴のある嘴の付け根の白色部分とアイラインがなかったことからマガンと判断
14）１１月８日現在まだいます
15）お腹が白いのと、腹の縦班が細い。　真木広造様よりのコメントでは
　　「チョウセンチョウゲンボウ幼鳥と思います」の判定

注２：チョウセンチョウゲンボウはチョウゲンボウの亜種　*Falco tinnunculus tinnunculus* ．ヨーロッパからアジアにかけて生息する。アジアでの生息範囲は明確ではなさそうである。日本、朝鮮、東アジアに生息するものは亜種チョウゲンボウ　*Falco tinnunculus interstinctus* とされ、やや色が濃く、縦斑が著しいとされている。

（編集部：平井）

キアシシギ（フラッグ付き）（安藤宣朗）

野鳥記録続き

クロハラアジサシ（中井節二）

ハシブトガラス白化
（川瀬裕之）

ハジロクロハラアジサシ
（中井節二）（注 8）

野鳥記録続き

マガン（前田　聰）

ヘラシギ
（今井光昌・中村洋子）

チョウゲンボウ
（チョウセンチョウゲンボウ）
（中井節二）

今後の探鳥会予定　（2015 年１月から３月分）

詳細は行事案内あるいは当会ホームページをご覧ください。

○ミヤコドリカウント　2014年12月15日　午前10時より（予定）（伊勢湾西岸各地：高松海岸から二見海岸まで）参加希望者は平井(059－268－3072)　mhirai@kpu.ac.jp まで連絡ください。（行事案内には記載されていません）

- １月１７日（土）　上野森林公園探鳥会　　集合／１０：００　上野森林公園ビジターセンター　問い合わせ／前澤昭彦　090 － 4229 － 1135　木村京子　059 － 329 － 2000（情報センター）
- １月１８日（日）　伊勢湾西岸ミヤコドリカウント探鳥会（海岸各地でミヤコドリの個体数を調べます。）開始／１３：００　会員限定　事前申し込み必要（申込先：問い合わせ先に同じ）
  問い合わせ／平井正志　059 － 268 － 3072　　岡　八智子　059 － 268 － 2428
- １月１８日（日）　銚子川河口探鳥会　集合／９：００　道の駅「海山」
  問い合わせ／中井　節二　090 － 7028 － 4978
- １月２４日（土）　両ケ池探鳥会　集合／９：３０　両ケ池公園道路脇駐車場
  問い合わせ／安藤宣朗　059 － 331 － 8683
- １月２５日（日）　木曽岬干拓地探鳥会　内容は、４月２７日と同じです。
- １月２５日（日）　大淀海岸探鳥会　集合／９：３０大淀小学校前　業平の松公園
  問い合わせ／岡本忠佳　090 － 5111 － 7121
- ２月８日（日）　木曽三川探鳥会　集合／９：００　多度大社前駐車場付近
  問い合わせ／近藤義孝　090 － 7431 － 0563
- ２月８日（日）　安濃川河口探鳥会　集合／１０：００安濃川河口右岸先端　東屋
  問い合わせ／杉村滋弘　059 － 226 － 7803　　岡　八智子　059 － 268 － 2428
- ２月２２日（日）　木曽岬干拓地探鳥会　　内容は、４月２７日と同じです。
- ２月２２日（日）　五十鈴公園探鳥会　集合／１０：１０　浦田町バス停
  問い合わせ／高木正文　0596 － 24 － 7283
- ３月１日（日）　石垣池探鳥会　　集合／１０：００　石垣池東側駐車場付近
  問い合わせ／市川美代子　059 － 374 － 1887
- ３月８日（日）　安濃中央総合公園探鳥会　集合／９：３０安濃中央総合公園駐車場
  問い合わせ／石原　宏　059 － 225 － 1493　　平井正志　059 － 268 － 3072
- ３月１０日（火）　海蔵川探鳥会　内容は、５月１３日（火）と同じです。
- ３月１５日（日）　宮リバー公園探鳥会　　集合／８：３０　宮リバーわたらいパーク第三駐車場
  問い合わせ／小坂里香　0596 － 62 － 1943　　西村　泉　090 － 1566 － 6010
- ３月１５日（日）　余野公園探鳥会　集合／１０：００　余野公園駐車場
  問い合わせ／塗矢尋一　090 － 1628 － 5297　　前澤昭彦　090 － 4229 － 1135
- ３月２２日（日）　木曽岬干拓地探鳥会　　内容は４月２７日と同じです。
- ３月２９日（日）　篠田山探鳥会　集合／９：３０　篠田山　トイレのある大きい駐車場
  問い合わせ／宮田たつ　0598 － 26 － 0708　　中村洋子　0598 － 21 － 6033

探鳥会報告（2014 年 8 月～ 10 月）

● ねぐら入り探鳥会
2014 年８月９日（土）開催予定でしたが、台風の接近により中止しました。

● 木曽岬干拓地探鳥会
2014 年 8 月 24 日（日）9：00 ～ 11：30
愛知県弥富市　鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／日本野鳥の会愛知県支部
近藤義孝　米倉　静　参加者８名
（会員３名）
カルガモ(24)、キンクロハジロ(1)、キジバト(7)、カワウ(80)、ゴイサギ(1)、アマサギ(6)、アオサギ(15)、ダイサギ(10)、チュウサギ(11)、コサギ(3)、クサシギ(3)、イソシギ(3)、ウミネコ(1)、ミサゴ(5)、トビ(2)、チュウヒ(1)、カワセミ(2)、ハシボソガラス(20)、ハシブトガラス(30)、ヒバリ(2)、ショウドウツバメ(10)、ツバメ(100)、ヒヨドリ(1)、セッカ(10)、イソヒヨドリ(1)、スズメ(90)、セグロセキレイ(1)、カワラヒワ(150)、ホオジロ(1)、ドバト(8)
計３０種
　夏としては過ごしやすい曇り空でした。
　イソヒヨドリが近くで見ることができました。木曽岬干拓地ではチュウヒやミサゴ、ショウドウツバメなどが観察できました。

ホオジロ

● 海蔵川探鳥会
2014 年 9 月 9 日（火）9：45 ～ 11：45
四日市市西坂部町　海蔵川沿い
川瀬裕之　参加者７名（会員６名）
カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ヒクイナ、ケリ、イソシギ、カワセミ、ハシボソガラス、ツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、セグロセキレイ、ドバト　計１８種
　秋晴れの絶好の探鳥会日和でしたが、参加者数がいつもの半分という少々さみしい人数でのはじまりになりました。
　中途半端な時期なので鳥の出が心配されましたが、開始前からカワセミが見られちょっと期待出来そうな始まりになりました。しかしその後はあまり活発に鳥が出てくれませんでした。田んぼにサギ類が沢山いたのが印象的でした。最後にヒクイナが顔を出してくれ、初秋の探鳥会を締めてくれました。

● 曽爾高原牧場タカ渡り探鳥会
2014 年 9 月 23 日（火・祝）8：00 ～ 12：30
奈良県宇陀郡御杖村　みつえ高原牧場
小林達也　田中豊成　参加者１１名
（会員１０名）
キジ、キジバト、ハチクマ、トビ、サシバ、ノスリ、クマタカ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ノビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ　計２１種
　天候にも恵まれ、タカ渡り、小鳥の渡りも観察出来ました。遠く東京方面からの参加者、植物、昆虫等自然観察する家族連れもあり楽しい一日でした。
　なお、開催地を「宇陀市曽爾村曽爾高原牧場」と誤って案内したため、参加者に混乱を招いたことをお詫びします。

● 木曽岬干拓地探鳥会
2014 年 9 月 28 日（日）9：00 ～ 12：20
愛知県弥富市　鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／日本野鳥の会愛知県支部

近藤義孝　米倉　静　参加者１９名
（会員６名）
キジ(1)、マガモ(3)、カルガモ(14)、コガモ(78)、キンクロハジロ(1)、カイツブリ(3)、キジバト(3)、カワウ(50)、アオサギ(6)、ダイサギ(13)、チュウサギ(5)、コサギ(4)、オオバン(1)、ケリ(1)、イソシギ(3)、ウミネコ(1)、ミサゴ(6)、トビ(1)、オオタカ(1)、サシバ(1)、カワセミ(1)、チョウゲンボウ(1)、チゴハヤブサ(1)、ハヤブサ(1)、モズ(4)、ハシボソガラス(10)、ハシブトガラス(40)、ヒバリ(6)、ショウドウツバメ(1000)、ヒヨドリ(21)、メジロ(5)、ムクドリ(1)、ノビタキ(1)、コサメビタキ(1)、スズメ(100)、ハクセキレイ(3)、セグロセキレイ(3)、ホオジロ(5)、ドバト(50)　計３９種

チゴハヤブサが鉄塔に止まり、ゆっくりと観察することができました。ハヤブサ・チョウゲンボウ・オオタカ・サシバ・トビ・ミサゴと猛禽類もたくさん出てくれました。残念ながら、チュウヒは観察できませんでした。

●　伊勢タカ渡り探鳥会

2014 年 9 月 28 日（日）7：00 ～ 11：00
伊勢市　伊勢やすらぎ公園
高木正文　中西　章　参加者１９名
（会員１６名）
キジバト、カワウ、ダイサギ、ハチクマ、トビ、サシバ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、イソヒヨドリ、コサメビタキ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ　計１７種

サシバ８３羽、ハチクマ２羽がＡＭ８：３０～１１：００に渡っていった。今シーズン初めて渡りが観察できた。まずまずの結果であったと思う。

今回、超ベテラン「バーダー」の参加がありました。

●　相津峠タカ渡り探鳥会

2014 年 10 月 4 日（土）8：30 ～ 12：30
松阪市飯南町　相津峠
西村四郎　中村洋子　参加者１５名
（会員１４名）
キジバト、アオバト、カワウ、サシバ、クマタカ、コゲラ、モズ、カケス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ツバメ、ヒヨドリ、メジロ、イカル、ホオジロ、コジュケイ
計１６種

集合場所の道の駅では、エゴの木があり例年通りヤマガラが近くで見られました。また、上空をカワウが飛んでいました。

峠へ着き、見晴らしの良い「感謝の丘」まで上りました。かなたの稜線にタカが２羽ほど舞っているのが見えましたが、同定はできませんでした。

その後なかなかタカは渡らず、しばらくはヒヨドリ、カケス、アオバト、メジロなど観察していましたが、地つきのサシバが１羽いてけっこう飛んでくれました。

ハイライトはクマタカで、お昼近くになり何度も舞ってくれました。足を伸ばして飛翔する姿はすばらしかったです。

サシバ

●　鳥羽タカ渡り探鳥会

２０１４年１０月５日（日）開催予定でしたが、雨天のため中止しました。

●　市木川及び水田探鳥会

2014 年 10 月 12 日（日）9：00 ～ 12：00
南牟婁郡御浜町　市木

中井節二　清水勝海　参加者１０名
（会員５名）
マガモ、カルガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、イソシギ、トビ、チョウゲンボウ、チゴハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ノビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、ホオジロ、ドバト　計２５種

台風接近していましたが、曇っていましたので実施しました。

風が強かったですが、思っていた鳥も見れてよかったです。チゴハヤブサが飛んできてくれて、皆さん大歓迎でした。

ダイサギ

●　木曽岬干拓地探鳥会

2014 年 10 月 26 日（日）9：00 ～ 12：20
愛知県弥富市　鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／日本野鳥の会愛知県支部
近藤義孝　米倉　静　参加者２２名（会員５名）
マガモ(3)、カルガモ(15)、コガモ(55)、カイツブリ(8)、キジバト(10)、カワウ(4500)、アオサギ(4)、ダイサギ(5)、オオバン(4)、ケリ(1)、アオアシシギ(1)、クサシギ(3)、イソシギ(4)、ミサゴ(4)、トビ(3)、チュウヒ(1)、カワセミ(2)、チョウゲンボウ(1)、モズ(5)、ハシボソガラス(20)、ハシブトガラス(40)、ヒバリ(10)、ヒヨドリ(50)、メジロ(4)、ムクドリ(10)、ジョウビタキ(3)、スズメ(100)、ハクセキレイ(7)、セグロセキレイ(6)、カワラヒワ(200)、ホオジロ(10)、ドバト(40)　計３２種

小学生が 3 名参加、その親御さんたちも加わり、普段より平均年齢が低い探鳥会でした。

種の数は少なかったですが、木曽岬干拓地を舞うチュウヒが観察できました。

編集後記

今回はカラー印刷に変更した。会員諸子の感想はいかに。ただ、完全な原稿を入稿せねばならず、また、印刷の制約上ページ数を４の倍数に編集するのが大変である。

また、冬鳥の季節である。今年の冬鳥はどうであろうか、数は多いか少ないか。いつも来る鳥はどうなっているのか。彼らの繁殖地である高緯度地方は地球温暖化の影響を真っ先に受けるという。シベリアでは永久凍土が解けているという。昨年は大規模な森林火災があり、その影響で北海道では空気中の微粒子が一時的に増えた。

冬鳥を観察し、記録を付けよう。我々ができる社会貢献でもある。

（M．H．）

しろちどり　82 号
2014 年 12 月 15 日発行
題　字：濱田　稔
表紙絵：小坂里香
カット：平井正志
編　集：平井正志
発行所：日本野鳥の会三重
平井正志方
514-2325 津市安濃町田端上野 910-49
http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

印　刷：株式会社プリントパック
617-0003 京都府向日市
森本町野田 3-1